

平成25年度第1回 CCC 電気通信工学グループ運営委員会議事録

I. 日時： 平成25年12月14日（土） 11：30から13：30まで

II. 場所： 公益社団法人私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者： 玉野委員、小林委員
井端事務局長、森下主幹、野本職員

IV. 議事概要

1. 平成25年度の活動計画と大学改革に向けた取り組みについて

- 平成25年度は、能動的学修の実現に向けてICTの活用を含めた効果的な学修の取り組み方策、教員の教育指導の開発、今後一層研究を進めるための検討を行う。サイバーFD研究員の意見を踏まえて見直しを行い、教育改善モデルの一層の充実・改善及び実現への取り組みを研究することとしている。

2. 教育改善モデルへの意見と検討について

7月から9月にかけて実施した教育改善モデルのアンケートには12名の教員から意見が寄せられ、その意見に対して以下の検討が行われた。

- コアカリキュラムに設定について追加意見があったが、例示としてのものなので、全ての記載とはしていないイメージとしている。
- 新しい枠組みや知の創出が目的なのかとの意見があったが、今回のモデルをどのように活用するのか、既存のバックグラウンドを持ちそこから出て行って知の創出になるのか、反転授業の例もあり、これからの模索や次のステップに良いものにしていきたいという考えであること。
- コミュニケーション能力やチームワークなどの指摘があったが、基盤となる能力は提言の第1章の2. 未来に立ち向かう人材育成の現状と課題部分で表現は異なるが記述をしているので、ここでは網羅していると考えている。
- CMOS回路設計をPBLでの学修提案は具体的な授業提案として受け止めた。
- 発想力（考える力）と運用能力（動かす、保守）について記述を希望する意見があり、到達目標2の解説部分の「改善ができる」のところに追記することにした。
- コミュニケーション能力の指摘は、PBLで包含されると考えている。継続教育、自己研鑽の指摘は到達目標4に含まれると考える。
- 過度なネット依存やリアルな支援の指摘があり、説明を補足する形で、改善モデル2の2.2 授業の仕組み部分で、「プラットフォームを構築して対面やネット上で授業を展開する」に変更することにした。
- モデル1の授業のねらい部分で、応用の学び直しについての指摘があったが、それぞれの大学で基礎から発展的につながるボトムアップ、基礎のフォローアップ、基礎と応用担当教員の協調が十分でないことがあり、授業の点検・評価・改善部分で改善対策を検討する必要性を記述している。

- ・ PBL の授業への導入について意見があったが、15 回全て PBL で行う想定はなく、どのように授業に組み込みのか取り入れるのか、座学と PBL の組合せなど、関連づけることをそれぞれの大学で考える必要のあることで課題としている。
- ・ 授業の公開化による情報共有の期待があったが、FD 活動としてオープンな研究会などをここでは考えている。
- ・ アンケート結果全体では、受け止め方としては概ね賛同されているが、具体性の部分では戸惑いを感じられた。今回の提言は、教育改革への話題提供の意義を持っており、話題から教員の理解を深めていただき具体的にはそれぞれの大学・授業に合わせて世界に通用する人材育成を目指した教育の質的転換が望まれる。

3. 次年度に向けた取り組みの検討について

- ・ 教育改善モデルの考察により、教育の質的転換へのスタートラインができたと考え、議論を進めることができる環境にきた。
- ・ 次年度の取組みとして、電気通信分野の教員に集ってもらい、対面で意見交流をしてはどうか。それぞれの教員に改善をおこしてもらうことを考えてはどうか。
- ・ そこで、国の動きなども教員に理解してもらうことが必要、教育の枠組み、教育の質的転換、地方との連携、産学連携など国としての方向指示器の共通理解を図る。

4. 大学改革に向けた取り組みについて

- ・ 学生の主体性を引き出す取組みとして **Future Skills Project** の取組みがある。PBL などで課題解決を体験させて学びへの意欲を喚起するもの。
- ・ 授業と自ら学ぶ時間を増やすこと、科目数が多い課題などから教育課程の体系化、科目統合などが求められ、補助金をからめた推進が進んでいる。どのように大学の特色を出して、その枠組みの中で授業改善を実施する具体化を考えてはどうか。
- ・ 大学の卒業認定も厳しくなり補助金の出し方も変わった。また、学長のリーダーシップ確立のため教授会の権限の限定など学長主導の改革が促進される。
- ・ 授業改善の例では、小学校の理科の授業でタブレットを利用した反転授業の取組みも開始されている。

V. 次回の開催日程

- ・ 次回の日程はネットで調整することにした。